

清水町 しみずちょう



人口（R2国調） 総数：9,094人 男：4,478人 女：4,616人
 面積 402.25km²
 役場所在地 北海道上川郡清水町南4条2丁目2番地
 郵便番号 089-0192
 電話番号 (0156)62-2111
 ホームページ <https://www.town.shimizu.hokkaido.jp/>
 Eメール -
 市町村コード番号 016365
 市町村類型 II-0
 交通機関 根室本線十勝清水駅から徒歩5分

【地勢】

清水町は十勝管内の西部に位置し、日高山脈が南北に走り、剣山、キウサン岳、メムロ岳、ペケレベツ岳などの山系を頂点として、十勝川に向かって緩い傾斜をなしている。ペケレベツ、ヌプチミップ、メムロ、キウサンの各河川と本町の中央を流れる佐幌川、いずれも十勝川に注いでいる。地質は、第4紀新層の湖成沖積、扇状及び第4紀海成洪積、湖成洪積扇状土からなる緩傾斜地と、おおむね平坦地で肥沃であり、農耕に適している。

【歴史】

明治31年、十勝開墾合資会社熊牛牧場に26戸99人が人植し、初めて開拓の鍬が打ちおろされ、十勝の自然の恵を豊かに受けて誕生した。以来、先人のたゆまない努力によって幾多の試練を克服しながら急速な発展を続け、同36年6月開村、戸長役場をおいて人舞村と称し、同40年落合・釧路間の鉄道開通によって来住者が増加し市街地が形成された。大正9年、日本甜菜製糖株式会社清水工場の設立によって急激に発展し、同12年に1級町村制を施行、昭和2年に清水村と改称した。同11年、町制を施行、同31年御影村と合併して面積人口が増加、新町建設計画のもとに農畜産、土木、建築、学校、社会教育、商工業の振興、社会福祉の諸施策を進め充実させるとともに、既設の雪印工場、日甜イースト、ペーパーポット工場に加えてプリマハム、成井農林、ホクレン製糖工場などの大規模工場の誘致をみて数多くの工場を持つ町となった。昭和40年10月、明治からの夢であった道東と道南を最短コースで結ぶ日勝道路の開通、更には平成3年の石勝樹海ロードの開通、同23年10月には道東自動車道が全線開通し、十勝の玄関口としての役割は益々重要化してきており、今後は更なる発展を目指している。

【町名の由来】

「清水」はアイヌ語の「ペケレベツ」を和訳したもので、明るく清らかな川という意味である。大正4年4月人舞村と称したが、昭和2年に清水村と改め11年に清水町となったものである。

【町章の意味】

六角形は清水の「水」を表わし、中央に「清」を配して、図案化したものである。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	すずらん	S41.11.1
樹木	ななかまど	〃
鳥	うぐいす	〃

【町政のあゆみ】

- | | |
|---|--|
| 昭和 11 年 町制施行 | 昭和 57 年 開基80周年記念式典、清水町役場新築、老人福祉センター完成 |
| 〃 27 年 開基50周年記念式典、町史発行 | 〃 61 年 町制施行50周年、町村合併30周年記念式典、公共下水道供用開始 |
| 〃 31 年 御影村と合併 | 平成 2 年 清水町図書館・郷土史料館完成 |
| 〃 33 年 境界変更、109戸667人芽室町へ編入 | 〃 4 年 世代間交流センター完成 |
| 〃 39 年 全国優良町村として全国町村会長より表彰 | 〃 4 年 開基90周年記念式典 |
| 〃 40 年 日勝道路開通、給食センター開設 | 〃 5 年 アイスアリーナ完成 |
| 〃 41 年 町制施行30周年記念式典、町民憲章制定 | 〃 10 年 保健福祉センター完成 |
| 〃 48 年 御影地区が自治省モデルコミュニティの指定 | 〃 14 年 開町100周年記念式典 |
| 〃 54 年 静岡県清水町と姉妹都市提携、和歌山県清水町と姉妹都市提携、福井県清水町と姉妹都市提携 | 〃 18 年 町制施行70周年記念式典 |
| 〃 55 年 清水町文化センター完成 | 〃 24 年 開町110周年記念式典 |
| | 令和 4 年 開町120周年記念式典 |

【行政施策重点事項】

清水町の将来像

清水町は明治31年4月、渋澤栄一氏による十勝開墾合資会社による開拓を始め、季節ごとにその彩りを変える日高の山並みに抱かれた大地に希望を求め多くの方が入植されました。美しく厳しい自然に翻ろうされながらも開拓を続けたそのたくましい精神は、連綿と町民に受け継がれ、文化の薫り高い、第一次産業を基幹産業とする今日の清水町が築かれてまいりました。

時代の潮流は、近年の少子高齢化や高度情報化、環境問題、危機的な財政課題など、これまでの価値観や視点の変革と、身の丈にあったまちづくりが求められています。

こうした時代の変化の中、清水町まちづくり計画を策定し、まちの将来像を「みんなで活き生き豊かさ育むまち とかしみず」と定め、住民と共有し行政が行う活動だけでなく、町民、団体、事業所など清水町を構成する各主体が、その時々々の社会情勢に対応しながら、みんなが地域のことを考え、その総意に基づいて最善策を判断し実践していくまちづくりを推進します。

まちづくりの目標

1 自然と共生する安全で快適なまちづくり

良好な自然環境と農村景観を保全・維持し、生活に必要な機能を集積したコンパクトなまちづくりを進め、町民が交流し、賑わいのあるまちづくりを進める。

2 誰もが健康で思いやりのあふれるまちづくり

町民が健康で、それぞれが持っている知識や経験を活かして活躍し、次の世代を担う子どもたちの成長のために地域全体が子育てに関わり、みんなで応援する思いやりあるまちづくりを進める。

3 新しい時代を担う人材を育むまちづくり

子どもたちが生きる力を持つ大人に成長していくため、たくさんの方が教育に関わり、学び合い、教え合うネットワークを形成して、信頼感と連帯感のある暮らしやすいまちづくりを進める。

4 町の資源を活かした活力あるまちづくり

環境との調和に配慮した資源循環型のクリーンな農業を展開して付加価値を高めるとともに、各産業が連携して町の資源を活かした「十勝清水」と名を付けた責任あるものづくりに取り組み、活力あるまちづくりを進める。

5 みんなで創る協働のまちづくり

町民主役のまちづくりを実践するため、情報の共有化を進め、町民と行政がそれぞれの役割と責任を理解し、互いに支え合う、協働のまちづくりを推進する。

【行政管理の特色】

1. 行政機能

事務事業の見直しを行い、能率的、合理的な組織編成に努めながら時代の要請に応えた効率的な行政運営を行っている。

2. 広域行政

近隣町と協同でとから広域消防事務組合を設置している。

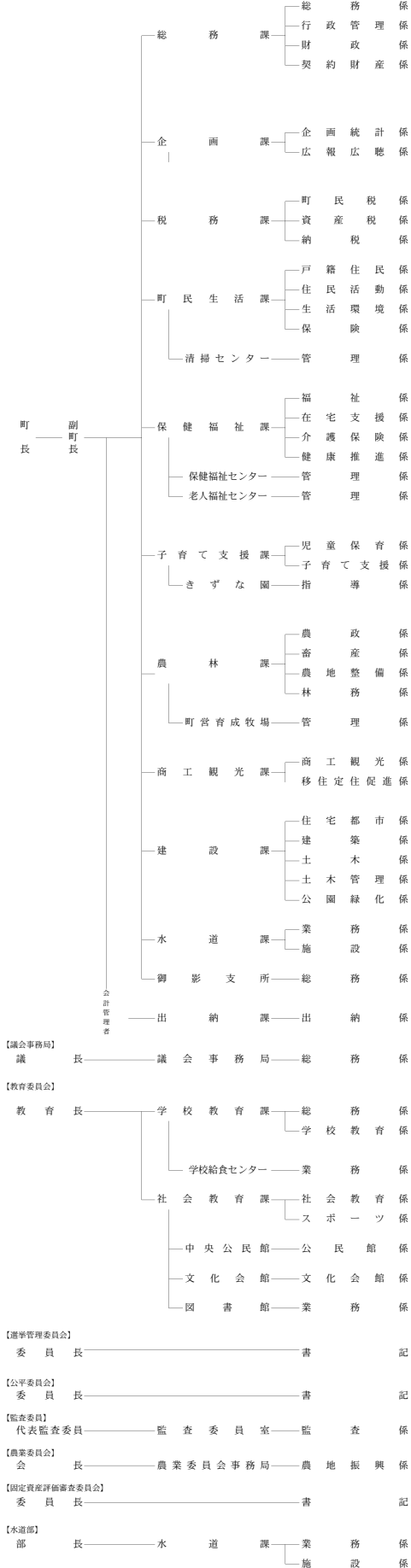
3. 行政の活性化

各種懇談会を積極的に開催し、総合計画に基づくまちづくりを推進している。

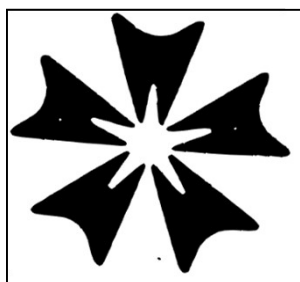
【主な公共施設】

体育館、保健福祉センター、清水公園、図書館、郷土史料館、清掃センター、アイスアリーナ、文化センター、ハーモニープラザ

【行政組織機構図】



芽室町 めむろちょう



人口（R2国調） 総数：18,048人 男：8,612人 女：9,436人
 面積 513.76km²
 役場所在地 北海道河西郡芽室町東2条2丁目14番地
 郵便番号 082-8651
 電話番号 (0155)62-2611（代表）
 ホームページ <http://www.memuro.net/>
 Eメール -
 市町村コード番号 016373
 市町村類型 IV-0
 交通機関 根室本線芽室駅から徒歩5分

【地 勢】

芽室町は十勝平野の中央部に位置し、日高山脈の分水嶺に源を発する美生川、芽室川と町の北部を西から東に貫流する十勝川の清流を控え、土地は概ね平坦肥沃にして農耕に最適の地である。北部は段丘高台地をなし、西部は山麓地帯で南部及び東部は広大な平坦地で、一部十勝川流域の沖積地を除き、ほとんど火山性土壌である。

【歴 史】

明治19年、北海道地域開拓の晩成社員渡辺勝、鈴木銃太郎、高橋利八の3氏によって開墾の鉞が下ろされたのが、芽室町和人移住の始まりであり、明治33年の戸長役場設置が開町である。昭和に入り人口増加が著しく、昭和17年宿願の町制が施行され、同33年には清水町大字御影村の一部を上芽室地区に編入し、以来、産業、経済、文化と調和のとれた急速な歩み続け今日に至っている。

特に、芽室町の基幹産業である農業は、開墾の鉞が下ろされてから115年、北方における厳しい自然条件や幾多の災害等の試練を克服し、堅実な発展を遂げ、大規模な機械化農業を確立し、北海道畑作農業の代表的地域としての先駆的役割を果たしつつ今日に及んでいる。

令和8年度までのまちづくりの指針として策定した第5期芽室町総合計画が平成31年4月にスタートした。

本計画では、これまでの総合計画の取り組みを引き継ぐとともに、人口減少が進むなかでも、さまざまな課題に対して、みんなで課題を解決し、先人たちから積み重ねられた町の歴史や文化、基幹産業の農業を中心として発展してきた産業などと次の世代へつなぎ、ずっとこのまちで暮らし続けられるよう、目指すべきまちの将来像を「みんなで創りみんなでつなぐ ずっと輝くまち めむろ」として定め、まちづくりを進めている。

【町名の由来】

芽室の語源は、アイヌ語で「MEM・オロベツ」である。

「MEM」とは泉・池などの意味で「オロ」とは内より、又は内にという意、すなわち川源泉池の内から来れる川と解される。一説には「MEMオロ」でメとは寒い、または冷やか、ムオロとはたまるといふ意、冷水の淵、冷水の池なども訳される。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	ミズバショウ エゾムラサキツツジ	S54.6.23
樹木	カシワ	〃
鳥	カッコウ	〃

【町章の意味】

中央に輝く星は、永遠に輝く北極星を表し、周りに配した芽室の頭文字「M」は、町民憲章の5つの基本理念「美しい心・楽しい暮らし・仕事への情熱・住民の英知・大きな夢」を表している。

シンボルカラーの「緑色」は、基幹産業である農業を象徴するとともに町の安らぎと潤いを象徴している。

【町政のあゆみ】

昭和 17年 町制施行	平成 2年 温水プール完成
〃 24年 創立50年記念式典	〃 3年 町立芽室病院改築
〃 41年 町立芽室病院完成	〃 4年 芽室西中学校完成
〃 43年 役場新庁舎完成、芽室町旗制定	〃 5年 帯広圏地方拠点都市地域に指定
〃 51年 芽室西小学校開校	〃 6年 住民票・印鑑証明書の自動交付サービス開始
〃 53年 総合体育館完成	〃 7年 保健福祉センター完成
〃 54年 開町80周年記念式典、芽室小学校新校舎完成	〃 8年 健康プラザ完成
〃 58年 上美生統合小学校完成	〃 10年 ふるさと交流センター完成、 めむろ駅前プラザ完成
〃 59年 屋内ゲートボール場完成	〃 11年 開町100年記念式典、新町章発表、 ふるさと歴史館完成
〃 60年 開拓百年開町記念式典、 大関大乃国に町民栄誉賞第1号贈呈、	〃 12年 ふれあい交流館完成
〃 62年 広尾町と「うみとやまのふれあい」宣言	〃 13年 町立病院眼科開設、ISO14001認証取得、 給食センター完成
〃 63年 芽室南小学校完成	〃 14年 公立芽室病院耳鼻咽喉科開設
平成 元年 図書館完成、開町90周年記念式典、 トレーシー市(アメリカカリフォルニア州) と姉妹都市提携	

【町政のあゆみ】

- 平成 15 年 祥栄小学校閉校、
芽室南地区コミュニティセンター完成
- ” 16 年 めむろてつなん保育所完成
- ” 17 年 公共サービスパートナー制度開始
- ” 18 年 岐阜県揖斐川町と友好都市提携、
公立芽室病院が世界保健機構(WHO)ユニセフ
により「赤ちゃんにやさしい病院」に認定
- ” 19 年 芽室町自治基本条例制定
- ” 20 年 第4期芽室町総合計画スタート
- ” 21 年 開町110年記念式典
第22回全国健康福祉祭ゲートボール大会開催
東めむろコミュニティセンター開館
- ” 22 年 めむろかしわ保育園開設
- ” 23 年 芽室町コミュニティバス「じゃがバス」運行開始
- ” 24 年 西子どもセンター開設
ブラジルゲートボール連合と親善交流協力協定を締結
広尾町と「災害時等の相互応援に関する協定」締結
- ” 27 年 芽室まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
第4期芽室町総合計画期間1年延長
- ” 28 年 めむろ子どもセンター開設
台風による被害(激甚災害指定)
- ” 29 年 西地区コミュニティセンター開設
支部科学大臣杯第33回全日本ゲートボール選手権開催
岐阜県大野町・池田町と「災害時等の相互応援に関する協定」締結
- ” 30 年 ひだまり保育所開設
永原和可那氏へ町民栄誉賞第2号贈呈
栄コミュニティセンター開設
- 令和 元年 開町120年記念式典
第5期芽室町総合計画スタート
- ” 2 年 コミュニティセンター(毛根・北明・美生)開設
- ” 3 年 役場新庁舎供用開始
コミュニティセンター(北伏古)開設
芽室町哺育育成施設開設
- ” 4 年 コミュニティセンター(雄馬別・坂の上)開設
- ” 5 年 芽室町温水プール開設
芽室町トレーニングセンター開設
コミュニティセンター(上伏古・中伏古)開設

【行政施策重点事項】

第5期芽室町総合計画の基本構想に基づき、計画的な行政推進を図る。(計画期間：令和元年度～令和8年度)

1. 農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり
2. 心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
3. 誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり
4. 自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり
5. 住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり

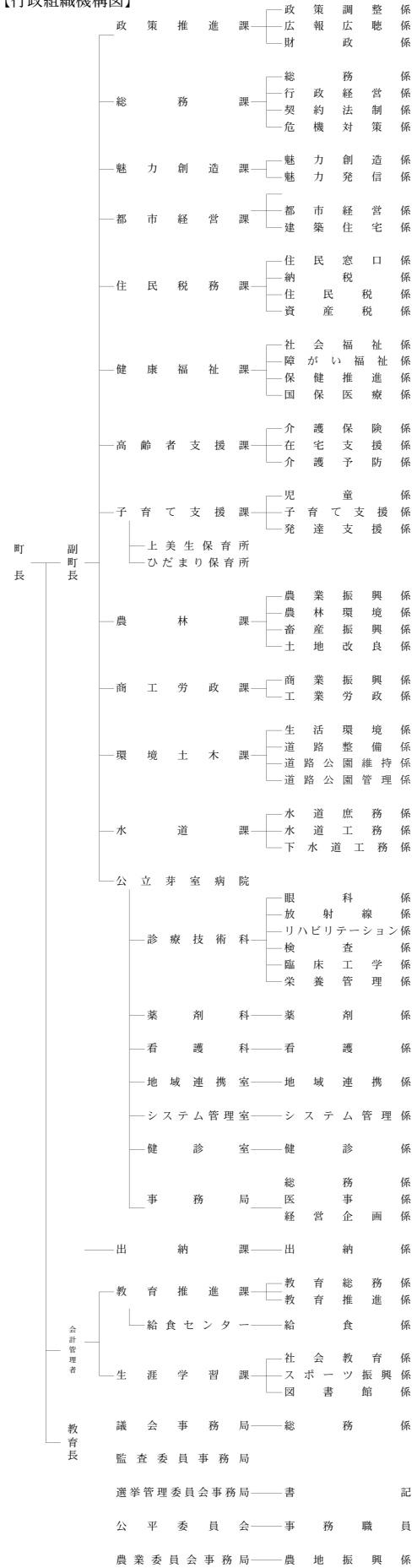
【行政管理の特色】

1. 令和元年度にスタートした第5期芽室町総合計画の実現を目指し、町政の推進に努めている。
2. 芽室町職員人財育成基本方針及び、芽室町行政経営ポリシーに基づき、組織の充実を目指している。

【主な公共施設】

中央公民館、公立芽室病院、地域福祉館、生活館、保育所、公園、農村環境改善センター、消防庁舎、総合体育館、野球場、図書館、温水プール、保健福祉センター、健康プラザ、ふるさと交流センター、駅前プラザ、ふるさと歴史館、給食センター、子育て支援センター、発達支援センター、子どもセンター

【行政組織機構図】



中 札 内 村 なかさつないむら



人口（R2国調） 総数：3,884人 男：1,880人 女：2,004人
 面積 292.58km²
 役場所在地 北海道河西郡中札内村東1条南1丁目2番地1
 郵便番号 089-1392
 電話番号 (0155)67-2311
 ホームページ <http://www.vill.nakasatsunai.hokkaido.jp/>
 Eメール yakuba@vill.nakasatsunai.hokkaido.jp
 市町村コード番号 016381
 市町村類型 I-0
 交通機関 十勝バス中札内停留所から徒歩4分

【地 勢】

中札内村は十勝平野の南西部、中部日高山脈の山裾に広がる圏域の中核都市帯広市に接する近郊型農村で、清流な札内川が村を貫流し、その流域に概ね平坦な農耕地が展開している。土壌は火山性の砂壤土が主体を占めている。気候は大陸性気候で降水量は少なく、冬期間は特に晴天の日が続き寒暖の差が著しく、山沿いは降雪量も多く年間降雨量は1,300mm内外である。

【歴 史】

明治30年、拓殖団体の一員として入植した上丸弥二郎が本村開拓の始まりで、その後各県の団体移民が相次いで入植し、札内川流域に集落を形成していった。明治45年、帯広、上札内間の国道が開通し、更に昭和4年国鉄広尾線の開通をみて、人口は逐次増加した。村制の施行は大正4年、1級町村制の施行により幸震村、売買村、上帯広村の3村併合して大正村となり、昭和22年に至り更別村とともに分村し、「中札内村」と命名した。戦後開拓が始まり未墾地の大方は開畑され、6,200haを超える農耕地を保有するまでになった。また、農業経営の法人化を積極的に進め、農業生産基盤の団地化、生産物の加工、流通システムの改善など協同経営による合理性志向の精神が強い農村で、土地基盤整備、生活環境の充実、企業立地の推進や近年の子育て支援、定住化支援などの施策の推進により、人口も定着しつつある。

【村名の由来】

中札内の語源は、アイヌ語で「サチナイ」（乾いた川の意）であり、本村は、札内川中流に位置するので「中」を冠し、中札内と命名したものである。

【村花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	スズラン	S52.9.1
樹木	カシワ	〃
鳥	ヒバリ	〃

【村章の意味】

昭和32年の開村10周年を機会に公募決定したもので、中央の白丸は潔白、真心を表わし、中と札内を組み合わせることで団結協力を意味し、輪かくは生産物の豆の畝を図案化したものである。

【村政のあゆみ】

昭和 22 年 大正村から分村し中札内村発足
 " 30 年 中札内村高等学校完成
 " 34 年 村章制定、畑作経営技術研究所設置
 " 38 年 中札内小学校校舎完成
 " 43 年 村民憲章、村歌、役場庁舎完成
 " 45 年 中札内中学校改築、村民プール完成
 " 48 年 村民体育館完成、簡易水道通水開始
 " 49 年 中札内保育所完成
 " 52 年 中札内高校校舎完成
 " 53 年 中札内高校道立に移管（全日制普通科）
 " 55 年 上札内プール、保健センター完成
 " 57 年 児童館地域集会場完成
 " 58 年 道立中札内高等養護学校完成
 " 59 年 農村環境改善センター完成
 " 61 年 精神薄弱者授産施設「中札内のぞみ園」開設
 " 62 年 上札内小学校改築・開村40周年記念式典、
 国鉄広尾線廃止

昭和 63 年 中札内火葬場新築完成、中島新橋完成
 平成 元 年 中札内診療所完成、殉難者慰霊碑完成、
 鉄道記念通り整備開通、
 旧上札内小学校跡地に「発祥の碑」完成
 " 2 年 過疎法指定地域から指定除外、
 個別受信機設置、日高山脈山岳センター完成、
 一本山展望タワー完成
 " 3 年 中央公園整備、上札内市街街路灯整備
 " 4 年 中札内市街街路灯及び歩道整備
 開拓記念館完成、緊急通報システム導入
 " 5 年 中札内小学校移転改築、
 富山県福野町と姉妹都市提携、
 特別養護老人ホーム「恵津美ハイツ」開設
 " 6 年 農業公園「アグリパーク」整備、
 学校給食共同調理場移転改築

更 別 村 さらべつむら



人口（R2国調） 総数：3,080人 男：1,519人 女：1,561人
 面積 176.90km²
 役場所在地 北海道河西郡更別村字更別南1線93番地
 郵便番号 089-1595
 電話番号 (0155)52-2111
 ホームページ <http://www.sarabetsu.jp/>
 Eメール village-office@sarabetsu.jp
 市町村コード番号 016390
 市町村類型 I-0
 交通機関 十勝バス更別バス停留所から徒歩3分

【地 勢】

更別村は十勝平野の南西部に位置し、北西の山脈から南東の太平洋に向けて緩やかな傾斜をもつ台地上にある。地質は火山性表土第四紀古（湖成）で総合的に見て決して肥沃とはいえない。中央にサッチャルベツ川、北部にサラベツ川が貫流し、この両河川地帯は比較的地味肥沃な農耕地となっている。

【歴 史】

明治38年に勢雄川流域に山田嘉一郎が入植し開墾の躰が下ろされたのが更別村開拓の始まりである。その後、大正6年に島根団体の入植を始めとして、愛媛、山形、青森の各団体の入植によって開拓が進み、大正末期には約150戸の入植者を迎えるに至った。昭和5年には国鉄広尾線が開通し、人口も急激に増加し更別村の基礎が定まった。

開拓当初は幕別村に属していたが、更別原野の開発が進むにつれて、交通、経済、行政上の不便から、大正15年4月住民の念願であった河西郡大正村（現在帯広市大正町）に行政区画が変更され編入した。その後、人口が増加し、行政における不便もあって、昭和22年9月大正村より分村し、村制を施行した。更に同23年には幕別村より勢雄、上協和地区が、編入合併され現在に至っている。戸数人口とも順調な伸びを示したのは昭和30年代までで、農村の過疎化の傾向は本村も例外ではなく、40年代に入ってから減少は著しいものであったが、農業経営の安定によって次第に落ち着きを見せている。

【村名の由来】

更別の語源は、アイヌ語で「サラ・ベツ」（芦、茅の生い茂るところの意）であり、昔、サラベツ川、サッチャルベツ川などの河川流域は、一面の低温化や、茅の大草原であったことから、この名が付けられたといわれている。

【村花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	鈴蘭	S47.8.1
樹木	柏	〃
鳥	未制定	

【村章の意味】

中央の葉形は畑作と酪農の発展を、外縁どりの三角形（半円形）は風雪に耐え抜いた先人の開拓精神を基に未来に大きく伸びゆく更別村を象徴したものである。

【村政のあゆみ】

昭和 22 年 大正村から分村し更別村発足	平成 7 年 上更別福祉館完成
〃 23 年 勢雄、協和地区が幕別村より編入	〃 9 年 開村50周年記念式典、更別村ふるさと館完成、宮城県矢本町と姉妹都市提携
〃 43 年 70歳以上の老人医療費無料化実施	〃 11 年 道の駅「さらべつ」完成
〃 45 年 更別村社会福祉センター完成	〃 12 年 シルバーハウジング住宅全戸完成
〃 47 年 開村25周年記念式典	〃 13 年 更別村市街下水道供用開始
〃 54 年 農村集落再編成完了（24行政地区）	〃 14 年 福祉の里総合センター完成・オープン
〃 55 年 役場庁舎、消防庁舎新築完成	〃 15 年 上更別市街下水道供用開始
〃 56 年 勢雄小学校体育館完成	〃 16 年 更別国民健康保険診療所完成・オープン、開拓100年記念式典
〃 57 年 更別高校道立移管	〃 17 年 宮城県東松島市（矢本町合併による）と友好姉妹都市提携
〃 58 年 更別村農村環境改善センター完成	〃 18 年 更別幼稚園新園舎完成
〃 59 年 更別小学校、農業者トレーニングセンター完成	〃 友好姉妹都市提携
〃 60 年 除雪車輛センター完成	〃 20 年 地域密着型介護老人福祉施設「コムニの里さらべつ」開所
〃 61 年 ゲートボール場、テニスコート完成	〃 21 年 更別憩の家完成
〃 62 年 開村40周年記念式典、福祉センター完成	〃 26 年 農村公園大型遊具完成
〃 63 年 事務OA化導入、農村公園完成	〃 27 年 更別街なか交流館ma・na・ca完成・オープン
平成 5 年 十勝インターナショナルスピードウェイオープン、更別村カントリーパーク完成	〃 28 年 更別村地域創造複合施設完成
〃 6 年 屋内ゲートボール場完成、更別村歯科診療所完成、更別村老人保健福祉センター完成、福祉の里温泉オープン	〃 29 年 十勝さらべつ熱中小学校開校
	〃 30 年 認定こども園上更別幼稚園開園

【行政施策重点事項】

平成29年に第6期総合計画を策定し、「住みたい 住み続けたいまち ともにつくろう みんなの夢大地」をまちづくりテーマに掲げ、仕事や生活を続ける場として魅力あるまちであり続けることをめざし、4つの重点施策と6つの基本目標を定め村づくりに取り組んでいる。

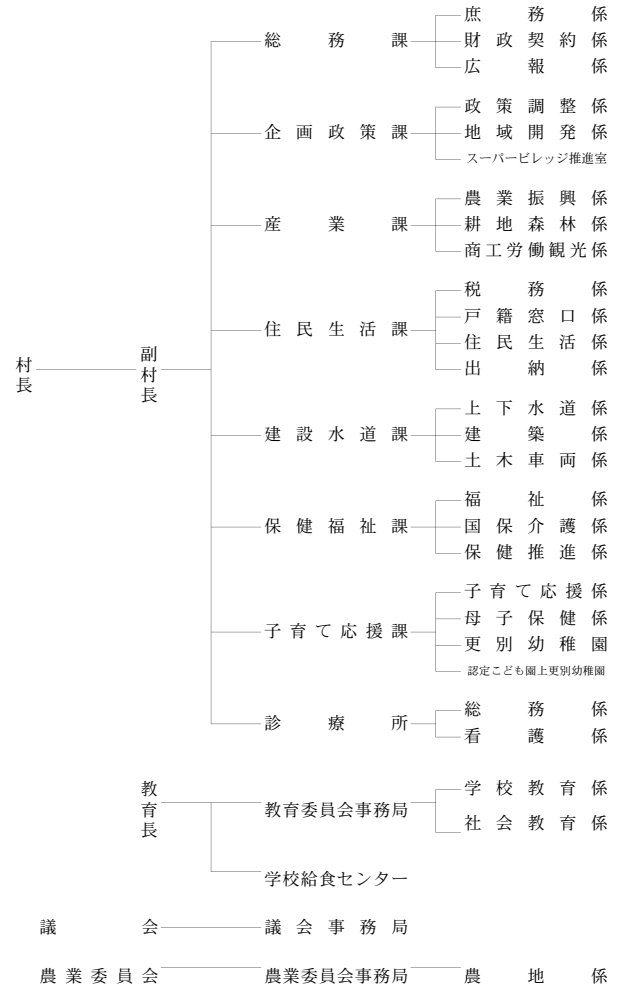
(重点施策)

1. 産業の活性化と雇用の創出により、住みたいまちをつくる
 - (1) 地域産業の強化と担い手の確保・育成を推進します
 - (2) 起業支援と雇用の創出により、働く場の確保に取り組めます
2. 新たな人の流れを増やし、住んでみたいまちをつくる
 - (1) 移住・定住に結び付く環境の整備に努めます
 - (2) 交流人口の増加に向けた取り組みを推進します
 - (3) 生活環境の良さなど本村の魅力を積極的に発信します
3. 生活の安心を高め、住み続けたいまちをつくる
 - (1) 誰もが安心して住み続けられる生活環境の整備に努めます
 - (2) 若い世代が希望を持てるよう、さまざまな角度からサポートします
 - (3) 防災意識を高め、災害に強いまちづくりを進めます
4. ともに学び、助け合い、参加するまちをつくる
 - (1) 生涯を通して学び続けることができる環境づくりに努めます
 - (2) 多様な人が関わり、参加するまちづくりを進めます

(基本目標)

1. 便利に生活できるまちづくり
2. 産業が元気なまちづくり
3. 心身の健康を支えるまちづくり
4. 環境を守り安心して生活できるまちづくり
5. 人が育つまちづくり
6. 知恵を出し合うまちづくり

【行政組織機構図】



【行政管理の特色】

職員定数の増加を抑制しつつ事務処理能力向上を図るため各種事務処理機器を導入してきたが、昭和63年度に電子計算機の導入を行い住民票の電算処理を開始し、平成元年度から各種事務について本格的に稼働させた。

また、多様化する事務事業の中にあって職員研修に力を注ぎ、職員自らによる事務処理の効率化を図っているほか、平成25年度には組織機構を一新し、より効率的な行政事務の推進を目指している。

【主な公共施設】

1. 教育施設
 - 農業高校（道立1）、中学校(1)、小学校(2)、幼稚園(2)
2. 文化体育施設
 - 農村環境改善センター、農業者トレーニングセンター、更別運動広場、コミュニティプール、上更別運動広場、柔剣道場、屋内ゲートボール場、パークゴルフ場
3. 厚生施設等
 - 国民健康保険診療所、社会福祉センター、上更別福祉館、憩の家、勤労者会館、火葬場、歯科診療所、老人保健福祉センター、ふるさと館、福祉の里総合センター、地域創造複合施設

大 樹 町 たいきちょう



人口（R2国調） 総数：5,420人 男：2,714人 女：2,706人
 面積 815.68km²
 市役所所在地 北海道広尾郡大樹町東本通33番地
 郵便番号 089-2195
 電話番号 (01558)6-2111
 ホームページ <https://www.town.taiki.hokkaido.jp>
 Eメール mailmaster@town.taiki.hokkaido.jp
 市町村コード番号 016411
 市町村類型 II-0
 交通機関 十勝バス大樹本町停留所から徒歩5分

【地 勢】

大樹町は十勝平野の南部に位置し、東部は太平洋に面し、西部には日高山脈が連なる広大な国有林が分布している。市街地の中心部には日本一の清流歴舟川が貫流し太平洋に注いでいる。この流域一帯は肥沃な農耕地が広がり平坦地が多い。

【歴 史】

寛永12年（1635年）、アイボシマ（現在の浜大樹）付近に砂金採取のため人が住み始め、その後、日方川（現在の歴舟川）は、宝の川として十勝開発発祥の地として栄えた。明治19年には十勝開拓の先駆者、依田勉三が現在の生花・晩成地区に牧畜業を営み、酪農発展の草分けとなる。その後、昭和3年広尾村より分村し、自治体制に踏み出した。同24年、忠類村を分村、同26年町制を施行、同33年旧大津村より生花・晩成を編入合併した。その後、同39年、41年の大冷害により離農が続出し過疎化が進行した。農業においては、これを契機として畑作中心から大型酪農へと急速な転換が図られ、現在では北海道を代表する酪農地帯となっている。

また、漁業においても、大樹漁港と旭浜漁港を拠点として「秋さけ定置網漁業」をはじめ様々な漁業が営まれ、本町の基幹産業である農畜産業と共に発展を続けている。

【町名の由来】

大樹の語源は、アイヌ語で「タイキウシ」（森林が多いところの意）であると言われている。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	コスモス	H元.12.20
樹木	カシワ	〃
鳥	ヒバリ	〃

【町章の意味】

大樹の「大」の字を円形に図案化し、外側の円は太く、内側の円は細く、町民が互いに話し合っって円満な町にしようという意味がこめられている。円内に「樹」の字を配置したのは、将来大樹のように伸展することを象徴したものである。

【町政のあゆみ】

昭和 26 年 町制施行	〃 4 年 総合行政情報システム導入
〃 30 年 旧大津村の一部（生花・晩成）を編入合併、開基60周年記念式典	〃 7 年 多目的航空公園完成、特別養護老人ホーム改築
〃 39 年 町民憲章制定	〃 10 年 開町70周年記念式典、生涯学習センター完成
〃 42 年 簡易水道（市街地）完成通水、特別養護老人ホーム開設	〃 11 年 高齢者保健福祉推進センター「らいふ」完成
〃 50 年 図書館完成、有線放送全戸開通	〃 14 年 経済センター完成
〃 51 年 国営大樹地区大規模草地育成牧場、柏林公園完成	〃 16 年 成層圏プラットフォーム、定点滞空飛行試験実施
〃 53 年 開町50周年記念式典、浜大樹港完成	〃 20 年 開町80周年記念式典、大樹小学校改築、JAXAとの連携協力協定締結、大気球観測実験開始
〃 55 年 晩成温泉、学童農業研修センター完成	〃 23 年 群馬県吉岡町と友好都市協定締結
〃 56 年 B & G 海洋センター完成	〃 26 年 宇宙交流センター「SORA」オープン
〃 57 年 福祉センター、B & G 海洋センタープール完成	〃 町立国民健康保険病院改築
〃 58 年 福島県相馬市と姉妹都市協定締結、北海道大樹高等学校改築	〃 27 年 台湾高雄市大樹区と友好都市協定締結
〃 59 年 武道館完成	〃 30 年 開町90周年記念式典
〃 61 年 B & G 海洋センター艇庫完成	令和 4 年 認定こども園たいき完成、役場庁舎改築
平成 2 年 防災行政無線設置、地場産品研究センター完成	〃 5 年 B & G 海洋センタープール改築

【行政施策重点事項】

平成26年4月から第5期総合計画がスタート。「～活力とやすらぎあふれるまちづくり～ 大いなる挑戦の継続」をまちづくりの理念に掲げ、「～暮らしと明日を彩る清流の里～ コスモスのまち 大樹」をテーマに町民と行政とのパートナーシップでまちづくりを進めていきます。

本計画では、分野別のまちづくり方針として5つの目標を設定し、その実現をめざします。

1. 「やすらぎを生み出す」人と自然にやさしいまちづくり
 - ・安全・安心な生活空間をつくる
 - ・生活の質を高める
2. 「健やかに暮らす」安心と支えあいのまちづくり
 - ・心身の健康を保つ
 - ・安らぎのある生活をつくる
3. 「人が輝く」夢を育み学びの意欲を高めるまちづくり
 - ・生涯にわたり育てる
 - ・生涯にわたり学ぶ
4. 「活力を高める」資源を豊かさにつなげるまちづくり
 - ・資源と環境を生かす
 - ・魅力を高め、雇用を生み出す
5. 「明日につなぐ」交流と協働を進めるまちづくり
 - ・つながりとひろがり大切に
 - ・自律性と透明性を高める
 - ・夢を形にかえる

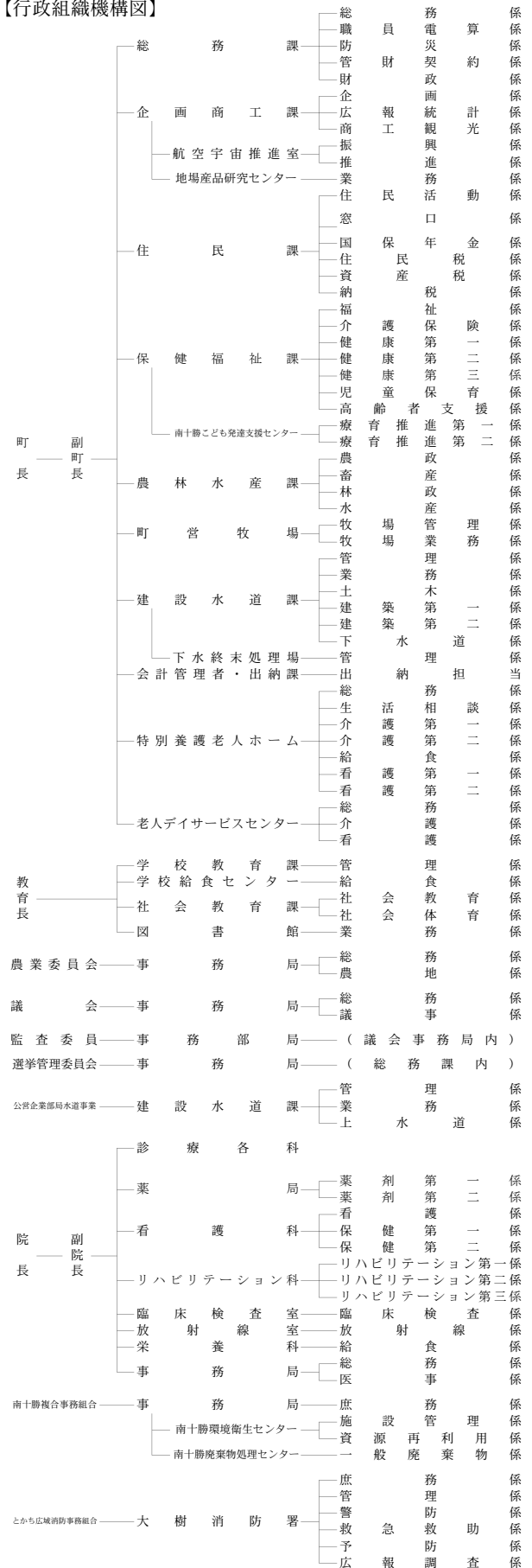
【行政管理の特色】

1. 平成21年に組織機構の見直しを行い、町民にわかり易い組織とするため係制へと移行した。これにより、これまでの事務効率化は維持しながら、組織内の指揮命令系統や責任の所在をより明確化し、事務能率の向上に努めている。また、住民課に総合窓口を設置し、来庁者を移動させないで丁寧に対応するよう努めている。
2. 昭和60年に住みよいまちづくりの推進を図る一環として、各行政区に担当職員を配置。地域からの要望や苦情の処理のほか、行政区行事の参加を通じて地域に密着した行政運営

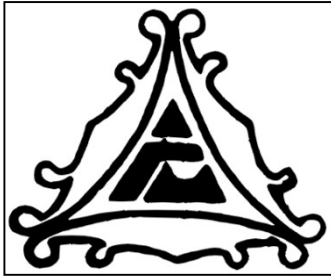
【主な公共施設】

役場庁舎、福祉センター、晩成温泉、学童農業研修センター、地場産品研究センター、多目的航空公園、宇宙交流センター、高齢者保健福祉推進センター、尾田認定こども園、学童保育所、南十勝こども発達支援センター、公衆浴場、光地園牧場、晩成牧場、行政区会館、下水終末処理場、住吉浄水場、坂下浄水場、特別養護老人ホーム、老人デイサービスセンター、生涯学習センター、学校給食センター、B&G海洋センター、武道館、B&G海洋センタープール、B&G海洋センター艇庫、高齢者健康増進センター、中央運動公園、図書館、町立国民健康保険病院（内科、外科、整形外科、眼科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、小児科、50床）、南十勝複合事務組合、消防署

【行政組織機構図】



広尾町 ひろおちょう



人口（R2国調） 総数：6,387人 男：3,096人 女：3,291人
 面積 596.16km²
 役場所在地 北海道広尾郡広尾町西4条7丁目1番地1
 郵便番号 089-2692
 電話番号 (01558)2-2111
 ホームページ <https://www.town.hiroo.lg.jp>
 Eメール -
 市町村コード番号 016420
 市町村類型 II-0
 交通機関 十勝バス広尾町役場停留所から徒歩1分

【地勢】

広尾町は十勝平野の最南部に位置し、町の西側には北海道の背骨といわれる日高山脈が走り、東は太平洋に面し、北部は紋別川を境に大樹町と接し、南部はピタタヌンケ川を境界としてえりも町と隣接している。広尾町はえりも魚田を前庭とし港とともに開けてきた漁業のまちである。

市街形成は、広尾、野塚、豊似、音調津と4つの市街地からなっている。

【歴史】

広尾町の歴史は、古くは東えぞ地と称されていた頃、先住民が広尾川に沿って居住し、その後、寛文年間に松前藩蠣崎藏人の給地となった。明治2年、開拓使が置かれ鹿兒島藩の支配となって以来町村整備が進められた。明治39年に2級町村制が施かれ、広尾郡茂寄村となり、大正15年に広尾村に改め昭和21年に町制施行され広尾町となり、今日に至っている。また、北海道や樺太を測量した近藤重蔵の名を記した重蔵随道がある。黄金道路で良く知られ、古くから漁業で栄えてきた歴史のある町である。

【町名の由来】

「広尾」は、アイヌ語の「ピルイ」から転訛したものとされる。「ピ」は転がるの意、「ルイ」は砥石を意味し、東西広尾川の合流点にある青い石を、アイヌは砥石に使用していたことから、この地名が起きたと言われている。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	ツツジ	S53.9.12
樹木	オンコ	〃
鳥	カモメ	〃

【町章の意味】

広はうろこを表わす正三角形とし、立岩・二見岩・北防波堤によって文字化され、さらに行政の柱である農・漁・商を三枚の波として三方からつつみ伸びゆく広尾と町民の和を象徴している。

【町政のあゆみ】

昭和 21 年 町制施行	平成 9 年 国道236号線（天馬街道）全面開通
〃 40 年 広尾港を十勝港に改める	〃 10 年 開町130年記念式典
〃 41 年 十勝神社300年祭	〃 11 年 関税法に基づく「開港」指定、 老人ホーム移転改築
〃 43 年 開町100年記念式典	〃 12 年 無線検疫港指定
〃 45 年 十勝港が重要港湾に指定	〃 15 年 生活支援ハウス「なごみ」完成
〃 49 年 広尾町消防団開設70周年	〃 18 年 長崎県西海市と姉妹都市提携
〃 51 年 第2小学校開校	〃 20 年 開町140年記念式典
〃 53 年 開町110年記念シンボルツリー、町歌制定	〃 25 年 防災行政無線デジタル化工事完了
〃 55 年 シーサイドパーク広尾オープン	〃 25 年 青少年研修センター宿泊棟・体育館耐震改修
〃 57 年 広尾町役場、コミュニティセンター完成	〃 26 年 児童福祉会館大規模改修工事完了
〃 58 年 十勝港シンボルマーク制定	〃 27 年 広尾中学校屋内運動場新築工事完了
〃 59 年 ノルウェーオスロ市よりサンタランドの 認定を受ける	〃 27 年 広尾浄水場完成
〃 60 年 広尾サンタランドシンボルマーク制定	〃 27 年 ひろお保育園完成（H28.4供用開始）
〃 61 年 長崎県大島町と姉妹都市提携	〃 28 年 十勝神社350年祭
〃 62 年 北海道芽室町と姉妹都市提携	〃 28 年 紋別研修センター新築工事完了
〃 63 年 開町120年を記念して十勝海洋博覧会開催	〃 30 年 開町150年記念式典
平成 2 年 十勝港第3ふ頭完成	〃 31 年 地方独立行政法人広尾町国民健康保険病院設立
〃 8 年 町制施行50年記念式典、フェリー就航、 ノルウェーフログン市と友好町提携	〃 31 年 認定こども園ひろお保育園完成
	令和 元 年 豊似小学校新校舎完成

